

# Discrete Mathematics Homework from Handout 2

高橋 知也 / 23TB8303

## Homework 7

Homework 7. Prove Theorem 4. (Hint: Notice that any event is a disjoint union of simple events. Consider the contribution of each simple event on each side of the equation and use the fact  $0 = (1 - 1)^t = \sum_{i=0}^t (-1)^i \binom{t}{i}$ , which is an easy corollary of the binomial theorem.)

解答. Theorem 4 (包除原理) は, 確率空間  $(\Omega, \mathcal{F}, \Pr)$  とイベント  $E_0, E_1, \dots, E_{n-1} \in \mathcal{F}$  に対して

$$\begin{aligned} \Pr\left(\bigcup_{i=0}^{n-1} E_i\right) &= \sum_i \Pr(E_i) - \sum_{i < j} \Pr(E_i \cap E_j) + \sum_{i < j < k} \Pr(E_i \cap E_j \cap E_k) - \dots \\ &\quad + (-1)^{\ell+1} \sum_{i_1 < \dots < i_\ell} \Pr(E_{i_1} \cap \dots \cap E_{i_\ell}) + \dots \end{aligned}$$

が成り立つ, という主張である. 以下ではヒントに従って証明する.

まず,  $\Omega$  の元  $\omega \in \Omega$  を 1 点だけ含む集合  $\{\omega\}$  を「単純事象 (simple event)」と呼ぶ. 任意のイベント  $E \in \mathcal{F}$  は

$$E = \bigcup_{\omega \in E} \{\omega\}$$

と表せ, 右辺の和集合は互いに素 (disjoint) である. したがって, 確率測度の加法性より

$$\Pr(E) = \sum_{\omega \in E} \Pr(\{\omega\})$$

が成り立つ. ゆえに, 示したい等式は「 $\Omega$  の各元  $\omega$  について, 左辺と右辺における  $\Pr(\{\omega\})$  の係数が一致する」ことを示せば十分である.

そこで, ある  $\omega \in \Omega$  を固定する. この  $\omega$  を含むイベントの個数を

$$t = |\{i \mid 0 \leq i \leq n-1, \omega \in E_i\}|$$

とおく. ( $t = 0$  の場合,  $\omega$  はどの  $E_i$  にも属さない場合である.)

もし  $t = 0$  ならば,  $\omega$  はどの  $E_i$  にも属さないので  $\omega \notin \bigcup_i E_i$  である. したがって左辺の  $\Pr(\{\omega\})$  の係数は 0 となる.

つぎに  $t \geq 1$  の場合を考える. このとき  $\omega$  は少なくとも 1 つの  $E_i$  に属するので  $\omega \in \bigcup_i E_i$  であり, 左辺の係数は 1 である.

右辺については,  $\omega$  を含む  $E_i$  が  $t$  個あるので, それらから  $k$  個選んだ交わりには必ず  $\omega$  が含まれる. そのような交わりの個数は  $\binom{t}{k}$  個である. ゆえに右辺での  $\Pr(\{\omega\})$  の係数は

$$\sum_{k=1}^t (-1)^{k+1} \binom{t}{k}$$

となる.

二項定理の結果

$$0 = (1 - 1)^t = \sum_{k=0}^t (-1)^k \binom{t}{k}$$

を用いると

$$\sum_{k=1}^t (-1)^{k+1} \binom{t}{k} = 1$$

となる. これは左辺の係数と一致する.

以上より Theorem 4 が従う.

□

## Homework 8

Homework 8. Give an example of pairwise independent events which are not mutually independent.

解答. 次のような確率空間を考える. 標本空間を

$$\Omega = \{1, 2, 3, 4\}$$

とし, 一様分布

$$\Pr(\{1\}) = \Pr(\{2\}) = \Pr(\{3\}) = \Pr(\{4\}) = \frac{1}{4}$$

を入れる. このとき

$$A = \{1, 2\}, \quad B = \{1, 3\}, \quad C = \{1, 4\}$$

とおく.

まず各事象の確率は

$$\Pr(A) = \Pr(B) = \Pr(C) = \frac{1}{2}$$

である. また 2 つずつの共通部分は

$$A \cap B = \{1\}, \quad A \cap C = \{1\}, \quad B \cap C = \{1\}$$

なので

$$\Pr(A \cap B) = \Pr(A \cap C) = \Pr(B \cap C) = \frac{1}{4} = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2}.$$

したがって,  $A, B, C$  はどの 2 つをとっても

$$\Pr(\text{積}) = \Pr(\text{片方}) \Pr(\text{もう片方})$$

が成り立ち, pairwise independent である.

一方, 3 つすべての共通部分は

$$A \cap B \cap C = \{1\}$$

であるから

$$\Pr(A \cap B \cap C) = \frac{1}{4}$$

である. しかし

$$\Pr(A) \Pr(B) \Pr(C) = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} = \frac{1}{8}$$

となり,

$$\Pr(A \cap B \cap C) \neq \Pr(A) \Pr(B) \Pr(C)$$

が成り立つ. したがって  $A, B, C$  は互いに独立 (mutually independent) ではない.

以上により,  $A, B, C$  は pairwise independent だが mutually independent ではない事象の具体例になっている. □

## Homework 9

Homework 9. Let  $(\Omega, \mathcal{F}, \Pr)$  be a probability space and  $E \in \mathcal{F}$  an event such that  $\Pr(E) > 0$ . For any  $F \in \mathcal{F}$ , define  $\Pr_E$  to be the conditional probability

$$\Pr_E(F) = \Pr(F \mid E)$$

of  $F$  given  $E$ . Define  $\mathcal{F}_E = \{F \in \mathcal{F} \mid F \subseteq E\}$ . Show that  $(\Omega, \mathcal{F}, \Pr_E)$  and  $(E, \mathcal{F}_E, \Pr_E)$  are both probability spaces if the domain of  $\Pr_E$  is chosen appropriately in each case.

解答. まず, 確率空間  $(\Omega, \mathcal{F}, \Pr)$  と  $E \in \mathcal{F}$  で  $\Pr(E) > 0$  を固定する. このとき任意の  $F \in \mathcal{F}$  に対し条件付き確率

$$\Pr_E(F) = \Pr(F \mid E) := \frac{\Pr(F \cap E)}{\Pr(E)}$$

を定義する.

(1)  $(\Omega, \mathcal{F}, \Pr_E)$  が確率空間になること.

ここでは,  $\Pr_E$  の定義域を元の  $\Pr$  と同じく  $\mathcal{F}$  とする. すなわち

$$\Pr_E : \mathcal{F} \rightarrow [0, 1], \quad F \mapsto \frac{\Pr(F \cap E)}{\Pr(E)}$$

とみなす. このとき, 以下の 3 条件を確かめればよい.

(i) 非負性: 任意の  $F \in \mathcal{F}$  について

$$\Pr_E(F) = \frac{\Pr(F \cap E)}{\Pr(E)} \geq 0$$

が成り立つ. 分子・分母ともに非負 ( $\Pr$  は確率測度, かつ  $\Pr(E) > 0$ ) であるからである.

(ii) 全体集合の確率:  $\Omega \in \mathcal{F}$  に対して

$$\Pr_E(\Omega) = \Pr(\Omega \mid E) = \frac{\Pr(\Omega \cap E)}{\Pr(E)} = \frac{\Pr(E)}{\Pr(E)} = 1$$

が成り立つ.

(iii) 可算加法性:  $(F_i)_{i \geq 1}$  を  $\mathcal{F}$  上の互いに素な ( $i \neq j$  なら  $F_i \cap F_j = \emptyset$ ) 列とする. このとき,  $F_i \cap E$  も互いに素であり

$$\bigcup_{i=1}^{\infty} (F_i \cap E) = \left( \bigcup_{i=1}^{\infty} F_i \right) \cap E$$

が成り立つ．したがって元の測度  $\Pr$  の可算加法性より

$$\begin{aligned}\Pr_E\left(\bigcup_{i=1}^{\infty} F_i\right) &= \frac{\Pr((\bigcup_i F_i) \cap E)}{\Pr(E)} \\ &= \frac{\Pr(\bigcup_i (F_i \cap E))}{\Pr(E)} \\ &= \frac{\sum_i \Pr(F_i \cap E)}{\Pr(E)} \\ &= \sum_i \frac{\Pr(F_i \cap E)}{\Pr(E)} \\ &= \sum_i \Pr_E(F_i)\end{aligned}$$

が従う．

以上より， $(\Omega, \mathcal{F}, \Pr_E)$  は確率空間である．

(2)  $(E, \mathcal{F}_E, \Pr_E)$  が確率空間になること．

つぎに

$$\mathcal{F}_E = \{F \in \mathcal{F} \mid F \subseteq E\}$$

を考える．これは  $E$  を全体集合とみなしたときの  $\sigma$ -代数である．ここでは  $\Pr_E$  の定義域を  $\mathcal{F}_E$  に制限した

$$\Pr_E : \mathcal{F}_E \rightarrow [0, 1], \quad F \mapsto \frac{\Pr(F)}{\Pr(E)}$$

を確率測度として考える ( $F \subseteq E$  なので  $F \cap E = F$  であることを用いた)．

このときも，同様に 3 つの性質を確かめる：

(i) 非負性：任意の  $F \in \mathcal{F}_E$  について  $\Pr(F) \geq 0$  かつ  $\Pr(E) > 0$  より

$$\Pr_E(F) = \frac{\Pr(F)}{\Pr(E)} \geq 0.$$

(ii) 全体集合の確率：ここでの全体集合は  $E$  であり， $E \in \mathcal{F}_E$  である．よって

$$\Pr_E(E) = \frac{\Pr(E)}{\Pr(E)} = 1$$

が成り立つ．

(iii) 可算加法性： $(F_i)_{i \geq 1}$  を  $\mathcal{F}_E$  の互いに素な列とする．すると  $\bigcup_i F_i$  も  $E$  の部分集合であり  $\mathcal{F}_E$  に属する．元の測度  $\Pr$  の可算加法性より

$$\Pr_E\left(\bigcup_{i=1}^{\infty} F_i\right) = \frac{\Pr(\bigcup_i F_i)}{\Pr(E)} = \frac{\sum_i \Pr(F_i)}{\Pr(E)} = \sum_i \frac{\Pr(F_i)}{\Pr(E)} = \sum_i \Pr_E(F_i)$$

が従う．

以上から ,  $(E, \mathcal{F}_E, \text{Pr}_E)$  も確率空間になっている .

したがって ,  $\text{Pr}_E$  の定義域をそれぞれ

$$(1) \mathcal{F}, \quad (2) \mathcal{F}_E$$

と選べば ,  $(\Omega, \mathcal{F}, \text{Pr}_E)$  および  $(E, \mathcal{F}_E, \text{Pr}_E)$  はどちらも確率空間となることが示された .  $\square$